

TsunagaLink と NotebookLM から考える、AI と人の関係性

はじめに

本資料は、「ゆっくり AI×ファシリテーション勉強会（第 16 回）」で実際に行われた内容をもとに、勉強会の中では十分に語りきれなかった専門的背景・ツールの構造・AI 活用に関する洞察を補足する目的で作成したものです。

勉強会では「使ってみる」「体感する」ことを重視しましたが、本資料では一步踏み込み、なぜこのツールやアプローチが有効なのかを言語化します。

1. TsunagaLink とは何か

— 単なる名簿ではなく「関係性を探索するための AI 補助線」

TsunagaLink は、コミュニティに参加する個人のプロフィール情報をもとに、

- 「どんな人がいるか」
- 「誰と誰がつながると、どんな可能性が生まれそうか」といった問い合わせに対しても、AI が示唆を返す仕組みを持つツールです。

重要なのは、**答えを決め打ちしない**点にあります。

TsunagaLink はマッチングを「確定」させるのではなく、

「こういうつながり方も考えられますよ」という**探索的な提案**を行います。

これは、人と人の関係性が本来あいまいで、文脈依存であることを前提にした設計です。

AI が人を評価・選別するのではなく、**対話のきっかけを生む装置**として使われている点が特徴です。

2. 勉強会で体験した「使い方」の意味

— 検索・相性診断・組み合わせ提案は何をしているのか

勉強会では以下のようないい方を実演しました。

- 「どんな人がいますか？」と自然言語で聞く
- 「○○さんとつながるには？」と具体的な名前で質問する
- 「○○さんと△△さんを組み合わせると？」と可能性を探る

これらは一見シンプルですが、実務やコミュニティ運営では非常に重要です。

人が本当に知りたいのは「一覧」ではなく、**意味のある関係性の候補**だからです。

AI は、登録されたプロフィール情報・関心領域・活動内容などを総合的に読み取り、「この 2 人は補完関係にあるかもしれない」

「この人は今の文脈で相談相手になりそう」

といった仮説レベルの提案を行います。

ここでのポイントは、

AIの提案を「正解」として受け取らないことです。

提案を材料に、人が対話し、判断し、関係を築く。

最終決定は常に人に委ねられている点が、健全な使い方といえます。

3. NotebookLM の活用と、権限という現実的な論点

— AI ツールは「共有すれば終わり」ではない

今回の勉強会では、NotebookLM の共有時に

- 利用できる機能が権限によって異なるという点が、実体験として共有されました。

これは多くの AI ツールに共通する重要な論点です。

なぜ権限が重要なのか

AI ツールは「知的作業を代替・支援する存在」である一方、

- 誰が編集できるのか
- 誰が生成できるのか
- 誰が閲覧のみなのか といったガバナンス設計が不可欠です。

NotebookLM のように、

- 個人作業向けの強力な機能
- 共有時には制限される機能が存在するのは、「誤操作」「情報汚染」「責任の所在不明」を防ぐためでもあります。

この気づきは、AI を組織やコミュニティで使う際に極めて実践的です。

4. AI×ファシリテーションという視点

— AI は「答える存在」ではなく「問い合わせを支える存在」

今回の勉強会で象徴的だったのは、

AI が場を支配することは一切なかった、という点です。

AI は常に、

- 参加者の問い合わせに反応し
- 可能性を提示し
- 次の対話を促す 役割に徹していました。

これはファシリテーションの本質と一致します。

ファシリテーションとは、

「答えを与えること」ではなく「よりよい問い合わせと対話を生むこと」

AIは、この役割を補助線として担える存在になりつつあります。

人が場を読み、空気を感じ、判断する。

AIは情報を整理し、視点を広げる。

この役割分担が成立したとき、AIは非常に強力な支援者になります。

5. 今後に向けた洞察

— AIを使う前に、関係性の設計が問われる

AIツールの価値は、「何ができるか」ではなく

「どんな関係性を生みたいか」によって決まります。

TsunagaLinkもNotebookLMも、

- 正しく使えば、つながりを深め
- 難に使えば、関係を薄める可能性を持っています。

だからこそ重要なのは、

- 誰のためのツールか
- どんな場を支えたいのか
- 人が判断する余白をどこに残すか という設計思想です。

今回の勉強会は、その入り口として「触って、話して、考える」安全な実験の場になっていました。

おわりに

AIは急速に進化していますが、人と人の関係性は一朝一夕では変わりません。

だからこそ、短時間・少人数で、対話を重ねながら試す場の価値は今後さらに高まっていくでしょう。

本資料が、勉強会の体験を振り返り、次の一步を考える手がかりになれば幸いです。

※ご留意ください

本資料は、Creative Guildで開催した勉強会の内容をもとに、AI(ChatGPT)を活用して自動生成されたものです。内容の正確性や完全性については保証できない点をご理解ください。ご自身の判断や追加の調査とあわせてご活用いただければ幸いです。Creative Guildは本資料の内容に対する責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。